

La double image de Pauline dans *La Peau de chagrin*

(*EQUINOXE* 11, 1994. 3, pp.29-41)

『あら皮』のエピローグは、作品の主要人物ポーリーヌをめぐる謎めいた表現に終始している。本論文では、その謎解きを試みた。ポーリーヌに対しては従来、「献身的」で「無垢な女性」という一面的な解釈がなされてきたが、彼女の肉体的・精神的変貌の過程を克明に辿ることで、彼女の二面性（「男の守護天使」的役目を果たすと同時に、「悪魔的な誘惑者」となる）を明らかにし、そこに男の眼から見た普遍的な女性像を重ね合わせた。